

# 自遊塾倶楽部広報紙 井戸端通信

Vol.46

発行  
平成29年2月20日

〒930-0096  
富山県富山市舟橋北町7-1  
富山県生涯学習カレッジ



学び続けることの意味  
県民カレッジ副学長 中明 文男

曰く、自遊塾の皆さんには富山県の生涯学習のリーダーとして活躍いただいていることに感謝いたします。巷のニューアなどで、社会状況の目まぐるしい変化が伝えられて戸惑ったり、地域の生活の有り様さえ、時代の流れの中で変わらざる（変えて行かざる）を得ない場面に出会ったりすることが多くなりました。ただ、自遊塾の皆さんの活動を見ておりますと、「変化の中でも大事にして行かなければならない事」があること、それを教えていただいている気がします。

カレッジ本部の一階の談話室に伝教師（最澄）の像があり、私はこの像の前のソファで一休みすることがあります。その像の表情には、自分より七つも若い空海に跪き、密教を教わった彼の生き方が現れている様で、厳粛な気持ちになります。あわせて「一隅を照らす」（『山家学生式』）の言葉が思い出されます。この像を置かれた方には、この像が、生涯学習を担うこの施設に相応しいと思われたのでしょうか。

県民教授の皆さんが、塾生さんと共に学びを深められることは、永年の間にご自分の身についた「知」や「技」をもって、周りに集う方々を照らすことのように思います。このようにして皆さんが「一隅を照らす」ことで、それを共に学ぶ塾生さんをも輝かせる輝きのつながりが生み出されると思います。「一隅を照らす」の後に「此れ則ち国宝なり」とあります。学び合ひ、自分の与えられた場所において、精一杯、輝き続けられる事こそ、今、声高に言われる「地域創生」の原点ではないでしょうか。皆さんが持つていらつしやる、生涯を通して学ぼうとする情熱を「素敵だな」と思いながら、私はサポーターとして、心から声援を送ります。

## News

『巣立ちゆく、』の出版に

心きらり

県民教授 坂田 陽子

十一月三日、文化の日。ホテルの会場は華やいでいた。各界の多くの方々、県民カレッジの塾生の方々にも出席していただき、二冊目の著書『巣立ちゆく、』の出版記念パーティーを催した。今まで支えてくださった方々への感謝と、本に託した思いを届けるために企画した。

未来に生きる子どもたちが、明るい希望をもって生きることができるよう、未来教育の風を。そのためのメッセージを一冊の本に託す。本が、いろいろな所で、いろいろな人と出会いその心を届ける。それがわたしの願い。

多くの人に囲まれ、わたしは、講座名「心きらり」の瞬間を味わっていた。



# 講座からの一コマ



ふるさとの文学めぐり（入門編）Ⅴ



伝統芸能「能 狂言みちしるべⅡ」～見て、触れて、能に親しむ～



「和と洋」の音体験そしてコラボ演奏にチャレンジしよう♪



富山の名水探訪



写真で綴る「絶景」富山の特等席めぐりⅦ



オーケストラ ポップス名曲フェスティバル 2016！

# 塾生の声

## 蕎麦ロマンを受講して

塾生 薬師 信幸

毎回、蕎麦打ちを有段者の講師の方から一対一で丁寧に指導して頂きました。粉の状態から麺に仕上げる工程や道具の並べ方、片付け方、そして、作業を効率よく行い手早く打つことが大切であることを学びました。

利賀村では、ソバの性質や品種、人との関わりなどについて学んだり、おいしい蕎麦を味わいながら講師の方との繋がりを深めたりすることができました。

九月に利賀で行われた「素人蕎麦打ち段位認定会」で、初段に挑戦しました。何回も何回も講師の方に指導して頂きました。その甲斐あって初段に認定され、講師の皆さんに大いに感謝しています。

自分の打った蕎麦を食べて、家族や同僚が「美味しい。」と言ってくれることが一番嬉しくて、「蕎麦ロマン」を受講した成果だと思っています。



## へるんセミナー

### 東西文化交流を

#### 未来に生かそう

塾生 角田佐保枝



へるんセミナーに参加して、日本人であること、そして富山県人であることの誇りと喜びを感じ、胸が熱くなりました。ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）の著書の中の一節「日本人の生活の類まれなる魅力は世界のほかの国では見られないもの…その国の美徳を代表している庶民の中にこそ、その魅力は存在する…その並外れた善良さ、奇跡的とも思えるほどの辛抱強さ、いつも変わることはない堅韌さ、素朴な心、相手をすぐに思いやる察しのよさに目を見張るばかりだ。」

— 昨今の大地震の中で世界中から称賛を浴びた日本人の行動は古来より受け継がれていること、それをハーンが理解し、記していたことに驚きました。また富山県人の教育向上を目指して成し遂げられたハーンの蔵書—ヘルン文庫創設に尽力された方々の無私の想いを知り、圧倒されました。

セミナーでは先生、受講者の方と共にハーンのとくを感しました。もっと学び、語り合いたいと思うのでいっしょにや。

## 「七夕」体験ワークショップ

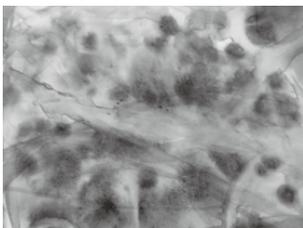
### 夏休み親子シユタイナー

#### 教育体験

塾生 野崎 亜紀

七月末の二日間、小二と小五の娘と一緒に参加しました。わらべ唄やお手玉を使った遊びを夢中でしているうち、人見知りの子ども高学年の機嫌の難しい時期の子とも達もすぐに打ち解けていて安心しました。講座は工作、水彩、歌にお話など盛沢山の内容でしたが、中でも思い出深いのは、宮沢賢治の星めぐりの歌をみんなで歌ったことと宿題を子どもたちと一緒にしたことです。それは、一日目、夜空にアンドロメダを探し、二日目、朝露を集めて持つてくるというもの。二日目はその朝露で墨をすり、願い事を短冊に書きました。大人も真剣に書きました。

七夕の話聞いて水彩で描きました



あの青春を再び！  
ハーモニカと人生・健康・音楽について！  
塾生 吉田 博幸

自遊塾のハーモニカ講座を受講。先生の指導方針は、決めた目標を継続実行する。また悪い癖をつけない。正しい姿勢でハーモニカを動かすこと。上達の秘訣は練習したことを皆さんの前で発表すること。今年の発表会では呼吸法、楽譜の見方、指揮者と合わせる練習でした。受講を機に益々「うまくなりた」といった意欲が高まりました。先輩塾生はベース奏法等のテクニシャンもいます。又、奥の深さも知りました。今年はいくつかの団体発表会に参加して緊張した中での達成感を得ました。一方、他団体の演奏を聴いていると「俺だつてできるな」と前向きな気持ちになります。奏法は一朝一夕には上達しませんが、先ず楽しく奏でることではないかと思えます。この講座に巡り合えたことが今年の収穫で、来年も新たな収穫が得られそうに楽しみにしています。



# 【特別企画】マイ・ポエム綴る&詠む

## ブローグ

慌ただしく流れ去る日常  
ふと立ち止まってみれば  
聞こえてくる風の歌  
駆け抜ける車の音  
子どもたちのはしゃぐ声  
眠っていた言葉たちも  
楽しげに踊り出す

## アイスクリームの夜

桑田今日子

夜中に 湯船に首まで浸かり  
草津節を歌いながら  
ちよいちよいと  
アイスクリームを舐めたら  
もう気分は女王様だ  
嫌な汗はバツサリ斬り  
いい匂いの泡だけ家来にする  
皆の者 武装を解いてよし  
ご苦労であった  
強いて言えば  
薔薇の花が足りなかった  
女王の小言も  
アイスクリームと一緒に  
夜の甘い夢の中へ  
溶けてなくなる  
何食べても美味しいがよ  
なかなか死なれんちゃ  
昼に聞いた婆やの口癖を  
お湯に浮かべて

## 秋が来た

田村 義秋

紺碧の空にモクモクと真つ白な入道雲  
大陸高気圧の寒気がぶつかり くしゃん  
入道雲はチリチリバラバラ  
雲のかげらは

ぽっかりぽっかりひつじ雲  
鱗のように広がるいわし雲  
白い雲を刷毛で伸ばしたすじ雲に変身  
高く澄み渡った秋の空に  
お似合いの雲たち

爽やかな秋の風を運んでくれ  
たわなに実る果物や穀物

気候も良く 食べ物も新鮮

「収穫の秋」「食欲の秋」「スポーツの秋」

「芸術の秋」「読書の秋」を満喫

やがて広葉樹は色つき枝を離れ枯葉に  
「木枯らし」吹かないうちに充電しよう  
健康維持に努めよう



## 祈り

秋

柏倉 君男

台風が来て猛暑が去り 涼風を歓迎する  
ひとあめごとに 爽やかさを 実感  
やがて来る 厳しい冬の季節が  
毎年 同じことのくり返し  
私のまわりは 波静か  
今の暮らしを 幸せを楽しむ  
孫達は やがて結婚 子を産むだろう  
人々の営みは 永遠か  
祈ろう この平和永遠に続け

## 優つ季節

喜渡比都美

時を重ねるごとに  
少しずつ感じる違和感  
なにごとかが  
うやむやな思いがズシンと残っている  
爽やかな秋風がそんな重さをぬぐいさり  
体内に吹き込むエネルギー  
夏の暑さではじけた思考回路  
よつやく正常運転 秋は普通にリセット  
してくれる優しい季節

## ひこばえ

かとうしげお

刈り取った稲株から 青々としたのちの芽生え  
稲の一生に 長短あれど育むいのち  
衆生のいのちも 稲作の生死と似て  
見渡す刈取り田から 雨に濡れて  
輝くひこばえ このいのち  
衆生を重ねて見た 晩秋の朝

# 第28回 県民カレッジ学遊祭から

平成28年10月1日(土)



# 講座紹介

## ●新川地区センター開催講座

### 「名山を楽しむ」を受講して

塾生 竹山 純子

講義は教授が野外研修で撮った花の写真の映写から始まります。野外研修は県内の他、長野や群馬まで出かける楽しい山行です。花を見て、鳥の声を聞いて歩く山道。董の隣に座って、蟻におかすを分けてあげる屋ごはん。遠くに、近くに見える山並みを眺めてうっとりするひと時。どの山に登った時も私には名山です。

講義の場で、花の写真を見ると、野外研修に参加した人は「あの時のあの花だ」と思い出すのです。山で見て、講義で見て、意欲のある人は植物図鑑やインターネットで調べて、ますます花好人になっていきます。

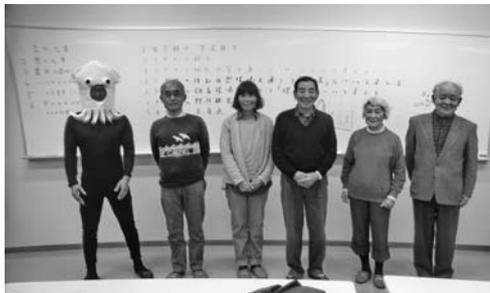
講義の後半は教授の体験談や、山のマナー、生物の多様性についてなど。山の知識の他に私が得たのは「人間も自然の一部。自然を守るとは人を守ること」。教授が一番伝えたいことなのかもしれないと思いついています。



## ●富山地区センター開催講座

### めだかの学校

県民教授 高森 茂



月に一度の「めだかの学校」は、とても楽しい時間でした。アイスブレイクの漫才で始まり、座学だけでなくメダカの観察スケッチや試薬を使った水质検査など様々な視点からメダカを通して環境について話し合いました。また秋の野外実習では好天に恵まれ、皆が童心にかえり多くの生物環境を観察できました。

この度の講座では受講生の方々よりも私自身が学んだ事が多くあったと感じています。このような機会を与えていただいた皆様に感謝しており、次年度も開催できるように新案を練る毎日です。

## ●高岡地区センター開催講座

### バルーンアートで人気者

県民教授 明野ひとみ

「友達に風船をあげたい」「孫に風船作ってあげたいので教えてください」と親しい方にプレゼントしたいと講座に参加されます。「割れる！」とドキドキしながら作品作りを始める方も出来るのとニコニコ笑顔になります。風船が割れた時は、「何か嫌な事が風船と一緒に飛んでいってすっきりした気分です」という声もありました。講座が終わると出来上がった作品をビニール袋いっぱいに入れて「楽しかったね！」とみんな笑顔で帰られますよ。だれでも笑顔になるバルーンは魅力いっぱい입니다。



## ●砺波地区センター開催講座

### 富山の魅力

県民教授 加賀谷辰夫



「富山の魅力」は早三年の講義を終え、この五月から四年目に突入します。「富山のDNAと感ずる富山のくすり」「遺跡」「ご朱印」などを取り上げるとともに、製薬会社役員や祭りに精通したゲストを招き、普段なかなか知る機会の少ない特別講義を実施しました。最終日は、ふるさとへの誇りと愛着を抱き、魅力を再認識し、塾生ならではの見方や言葉で発表です。子どもや孫の世代にふるさとの魅力のバトンを継承し、県外の方などに「知のおもてなし」をしたいですね。少人数で、和気あいあいとして、質疑等も活発な講座です。砺波地区センターで七回開講しますので、興味のある方は、ぜひ一緒に頑張りましょう。

常に、人生、生活を考えながら、そして現在に重きを置いて英語を学び続ける。そして、ゆくゆくは外国人がアナタに近づいてきたらすぐ逃げたりしないで何とか対応できるようにしたい。このことを切望しての講座である。

●本部開催講座  
英語を楽しみましょう  
Let's enjoy English  
県民教授 山本 逸哉

たかが英語、されど英語。世界で唯一の国際語となつている。一人、力んで勉強してもらちがあかず限界が見えてしまふ。日本語と英語は余りにも違う言語だから。発音を初めとして語順そして発想法：それだから皆で一緒に学びましょう。習いましょう。初歩から読み書き・聞き・話すの四拍子を含めて。Englishをenjoyするんです。Enjoyの目的語にlifeがきてもmistakeがきてもいいんです。何でもenjoyし享受してしまふ。享受して受け入れ味わい楽しむことー広辞苑ー  
ボブ・ディランの「風に吹かれて」を歌ったり、富山の風土、観光、方言も英文パンフレットを使ったりーきのどくなーthank youー  
英語の名言、諺も百べらうは学びましょう。



## 新講座紹介

●高岡地区センター新講座

### 聞き方教室

県民教授 竹口 健一

皆さん、傾聴という言葉をもっと御存じだと思います。でもきくと相手の言葉を「ふん、ふん」とただ黙って聞く、話を遮らないよう質問や自分の意見は言わないと思つていらつしやるののではないでしようか。この講座では相手の話を聞く時にただ黙って聞くだけでなく、もう一歩進め相手のことを尊重し声かけすることができ、相手の気持ちに触れる本当の意味での傾聴をみんなですんでいきたいと思つていきます。

現代の社会（働く職場、地域社会、家庭）では人間関係が希薄になってきており、いまやその人間関係が悩みやストレスの最大要因となつていると言われております。この「聞き方教室」での学びを通じてより良い社会生活を送れるよつになればと祈念しております。



●本部新講座

### 時事川柳が今なぜ脚光を浴びるのか

県民教授 谷澤 裕平

小池都知事とトランプ大統領。期せずして同時期に脚光を浴びたこの二人によつて時事川柳は大盛況でした。その勢いは今も衰えてはいません。まさに時事川柳は時代を映す鏡です。世界のどこかで、国内でも刻々といろんな事が起きています。それらを素早く切り取つて五七五に詠む。肝心なのはセンスとスピード、そしてスタイル。上手くなるコツを聞かれます。コツコツやるしかないと答えています。飽きないで続けるには？それも人それぞれなので、一緒に考えましょう。その「秘策」を探るのが私の仕事です。とりあえず新聞には毎日目を通す。今まで以上に世の中に興味と関心を持つ。あとは根気。肩の力を抜いて恥をかかす事を恐れず、一定の時間内は集中する気力。いま時事川柳は空前の大ブームだと言われております。人気が高まった方、メディアへの投稿も競争が激しくなつていようです。だからこそやり甲斐があるとも言えます。

●本部新講座

### アメリカ・台湾・富山の言葉と社会

県民教授 岡本 博志

言葉を毎日使い、あまりに身近であるため私たちが関心を持つことはほとんどありません。言葉の役割は何かというと、当たり前のことですが、会話がお互いに通じ合うための道具です。この講座では、方言と標準語について、言葉をキーワードにして、富山から日本の外まで広げて考えてみることにします。私に馴染みがあるアメリカと台湾を例に取り、詳しく話していきます。

各国の言葉事情から社会の一端をおわかりいただけると幸いです。

話が飛ぶ脱線は私の得意技ですから、皆さんも話の途中でも、なんでもご質問されることを歓迎します。



俳句を作る 富山を語る

動き出す旅への思い涼新た

智子

野仏や涼風受くる峠越え

大島 昭夫

図書館の書庫の匂ひや梅雨じめり

龜谷 正恵

夏霧や見へてかくるる宇奈月湖

河岸 佳子

野分して信濃の奥の朴葉味噌

桑田ふみ子

隣人の血税吸った蚊を叩く

笹川 義弘

重詰や彩り映える嫁の味

島津 淑子

家族待つ新しき箸雑煮椀

中井 千

今年米三四粒を生齧り

横沢 義則

初雪や母が起こしに来てくれし

森川 敬三



平成28年度自遊塾交流会報告

1 開催日時 7月16日(日)

13時30分～16時20分

2 場所

となみ散居村

ミュージアム・

交流館

3 人数 9名

4 内容

【ミニ講座】

①生活を楽しくする小物作り

(野崎タツ子)

②いきいき富山の健康体づくり

(檜谷 靖城)

③自己紹介および意見交換

・各自の講座の紹介や講座に対する  
思いなど、今後の講座運営などで  
参考になることが数多くありまし  
た。  
・押し花は自然素材を使用しており  
きれいでした。しかも事前準備が  
とても良くなされていたので、作  
品がそれぞれ自分なりに完成で  
き、大変よかったです。  
・「井戸端通信Web版」の発行およ  
び原稿募集について広報部会より  
説明がありました。



県民教授リレーコメント

造語「情報のホームラン」

県民教授 水須 忠

今から四十年前程前、現職で仙台市  
の郊外に住んでいたとき異業種交流  
会に参加していた。

ラジオで「蘭」の話をしていた。そ  
こからヒントを得た。それは「情報」  
とは「知らせる・分らせる・見せる・聞  
かせる」ことだと思い、「知らん・分  
らん・見とらん・聞いとらん」とい  
う造語を作った。

実際、我々は日常生活でも些細な  
言葉の行き違いでトフブルを起こす  
ことがある。大概は「俺は知らなかつ  
た。聞いていなかった。分らなかつ  
た。」である。丁寧な説明が必要であ  
ろう。

情報の共有化もおそらく『情報の  
ホームラン』つまり「知らん・分らん・  
見とらん・聞いとらん」の一扫で事が  
すむと思うのは、思ひ上がりだろう  
か？



編集後記

澤田 隆彰

今年度より井戸端通信「Web版」  
を発行した。平成七年創刊の井戸端  
通信は当初年四回の発行だった。当  
時は塾生や県民教授間だけでなく他  
講座間の交流も活発に行われ、まさ  
にワイワイガヤガヤの広報紙「井戸  
端通信」だった。当時の編集メンバー  
のエネルギーに敬服する。

時の経過とともに、多忙のため年  
一回の発行となっていました。

これでは活き活きとした自遊塾の  
活動が伝わらないと思ひ、「Web版」  
を新設した。少なくとも各講座で一  
回は掲載してもらいたかったが、残  
念ながら目標には届かなかった。パ  
ソコンが不得手という県民教授や塾  
生もおられると思うが、写真と手書  
き原稿があれば広報部会で編集する  
ので気軽に送ってもらいたい。

平成28年度自遊塾 県民教授会役員

塾長	平田 清志
副塾長	大塚 裕一
副塾長	中川 佳子
広報部長	澤田 隆彰
部長	森川 敬三
副部長	能沢 一代
交流・研修部長	中嶋 昭三
部長	出前・庶務
部長	檜谷 靖城
副部長	岩田裕美子